

11/27(土) まいど！ 倫理号です。今年も残り所剩无几。肌寒い今日この頃です。本を余り読まない私も「万人幸福の葉」を讀み出し実践していまふ。頭が理解

好より 体で理解が実践は 肉率なく 自自身の糧になり

幸福が味鳥

2021. 11. 27~12. 3

今週の

倫理

11月のテーマ | 本からの学び

1257号

倫理研究所の創立者・丸山敏雄は多数の著作を記しましたが、その一つに『万人幸福の葉』(一九四九年刊。以下、葉)があります。実行によって直ちに正しさが証明できる生活法則を、分かり易く実行し易い十七箇条の標語と解説によって説き明かした同書は、多くの経営者に愛読されてきました。

\*

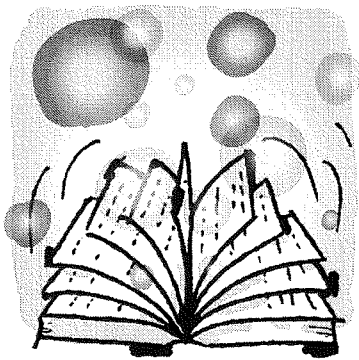
倫理研究所の丸山敏秋理事長は、自著『万人幸福の葉を讀む』の中で、『葉』を活かして讀むために心得ておきたい要点を三つ紹介しています。その三番目に「実践と結びつけた讀み方」があります。

経営者のA氏は、『葉』を讀み始めた当時のことを、次のように語ります。

「経営者モーニングセミナー(以下MS)に初めて参加した日に『葉』を讀みました。一つひとつをみれば当たり前のことばかり書いてある、というのが第一印象でした。『人の生きる道』という点では共感するものの、さして目新しい内容ではない……と思いつつながら讀んでいました。」

ところが、MSに参加しているうちに、堅実な経営をしている人ほど、『葉』をただ讀むだけで終わらせるのではなく、『実践と結びつけて讀む本』と捉えているという共通点に気がついたのです。

A氏が手本にした倫理法人会の先輩経営者・B氏は、『葉』に書いてある『当たり前のこと』を、自分ができていないかどうかを振り返って、日々の指針としていました。その姿勢に感化されたA氏は、B氏に誘わ



## 本から学びや 気づきを得る

れて富士高原研修所(静岡県御殿場市)で行なわれていた「経営者倫理セミナー」を受講したのである。講師のガイドで『葉』を繙(ひもと)いていった際、心に残ったのは、第十三条「本(もと)を忘れず、末を乱さず」でした。

ほんとうに、父を敬し、母を愛する、純情の子でなければ、世に残るような大業をなし遂げる事はできない。いや世の常のことでも、親を大切にせぬような子は、何一つ満足にはできない。

A氏は、「何度も讀んできた箇所でしたが『ほんとうに』という一節が目飛び込んできた時、心から親を大切に思ってきたかということ省みて、涙が止まらなくなりました」と語りました。

\*

様々な本の讀み方があります。『実践と結びつけた讀み方』もあれば、自らの行動を振り返る意味で讀むこともあるでしょう。本から学びや気づきを得ることに、生まれ変わるかのような衝撃を受け、人生が一変した人もいます。A氏もその一人で、その後、実践に取り組み始めました。

自分の血肉とする、糧とするとは、こうした讀み方をいうのではないのでしょうか。純粋倫理も、経営者も、『実践が命』であることは言うまでもありません。

その後、A氏は、先述の「本を忘れず、末を乱さず」を実践の指針とし、『葉』を座右の書として常に傍らに置き、今日も実践に励んでいます。